

防音型高圧洗浄機

ジェットグリーン

型式：JC-1513SLN+

【取扱説明書】



ご使用前にこの「取扱説明書」をよく読み正しく
お使いください。誤った取り扱いは機械の故障や
大変な事故につながります。
機械を操作する前にいつでも見られるように大切に
保管してください。

この度は **SEIWA** ジェットクリーン JC-1513SLN+」 を
ご選定いただきまして厚くお礼申し上げます。

- 当機のご使用に際しては、この取扱説明書を熟読していただき、安全にご使用ください。
- 品質、性能向上または安全上、部品の変更を行うことがあります。その際は本書の内容と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 不明な点やお気付きのことがございましたら、お買いあげ店、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

△印付きの下記のマークは安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。

 危険	適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う危険性 が大きいことを示します。
 警告	適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う可能性 があることを示します。
 注意	適切な事前注意をとらないと 傷害又は製品の重大な損傷を招く可能性 があることを示します。
 留意	製品の使用上の留意点や参考となる事柄を示します。

目 次

安全のために	1~2
1. 使用上の注意(安全にご使用いただくために)	3
2. 仕様諸元表	4
3. 各部名称・機能及び基本操作	5
4. 作業操作手順	6~9
4-1 オイル点検	6
4-2 燃料の給油	7
4-3 付属品の取り付け	7
4-4 エンジンの始動	8
4-5 アワーメーター	8
4-6 作業開始	9
4-7 一旦停止	9
4-8 停止終了	9
5. トラブル対策	10
6. メンテナンスサイクル表	11
7. 警告ラベル貼付位置	12

安全のために

△印付きの下記のマークは安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。

 危険	適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う危険性 が大きいことを示します。
 警告	適切な事前注意をとらないと 死亡又は重傷を負う可能性 があることを示します。
 注意	適切な事前注意をとらないと 傷害又は製品の重大な損傷を招く可能性 があることを示します。
 留意	製品の使用上の留意点や参考となる事柄を示します。

△ 危険

- 噴出口に指や手を当てたり、のぞき込んだりしないでください。
- 人体に向けて洗浄ガンの引き金を引かないでください。
- 噴射時に反動がかかるため、不安定な姿勢での作業は墜落事故等の原因となります。しっかりとした足場を確保して作業してください。高所作業時は命綱等の安全策をとってください。
- 洗浄ホースを強く引っ張ったり無理に曲げたりしないでください。又、外観に深いキズが付いていたり、折れ曲がったりつぶれたりしているホースは破裂して水が噴き出す恐れがあり危険ですので使用しないでください。
- 引火性、爆発性ガスのある場所では使用しないでください。火災や爆発事故につながり危険です。
- 風通しの悪い場所、排気ガスがこもる場所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまり、ガス中毒の危険があります。
- 火災防止や、エンジンの排気が十分されるために、使用中は建物及びその他の設備から2m以上離してください。(車載使用厳禁)
- マフラの排気は大変高温ですので、必ず開放された空間に向けて設置してください。付近に可燃物があると火災や物損の原因となります。また、人体に触れると火傷の原因となります。
- ガソリンの給油をする時は、エンジンを必ず止め、タバコ・たき火等周囲に火気が無い事を確認してからおこなってください。
- 給油時はゲージの動きに注意し、満タン(フィルターのレッドマーク)以上入れないようにしてください。突然あふれたり、運転中に吹きこぼれたりする事があり大変危険です。
- ガソリン給油後は、タンクキャップを確実に閉めて下さい。緩んでいると運転中にガソリンがこぼれ、気化したガスによって引火する恐れがあります。
- 作業停止後は必ず燃料コックを閉めてください。移動時に燃料がこぼれると（オーバーフロー）火災の原因となり大変危険です。

⚠ 警告

- ランスのグリップは動かないようしっかり固定してください。
- 洗浄ガンを片手で持って引金を引かないでください。
- 足場を固めてグリップと洗浄ガンは両手でしっかり支えてください。
- 洗浄ガン、及びランスを取外す時は必ず本機の運転を止めてから行なってください。
- 安全の為、洗浄作業を行なわない時は必ず安全ロックをしてください。
- エンジン停止後はホース内に圧力が残っています。使用後は必ず洗浄ガンの引金を引いて残圧を逃してください。
- 作業停止後は必ず燃料コックを閉じてください。開いたまま移動したりするとオーバーフローにより燃料がこぼれ火災の原因となり大変危険です。
- 安全ロックの効かないものや、引金に戻らないもの、及び接続部分より漏れが発生するものは使用しないでください。
- お子様など関係者以外は近づけないでください。誤った操作やいたずらにより思わぬ事故を招きます。
- 運転中、直後のポンプ、エンジン、マフラー付近は高温になります。ヤケドを負う危険がありますので手を触れないでください。
- アンローダーのストッパーは調整済みです。修理以外は動かさないでください。尚、規定以上に上げてご使用されますと故障の原因となるばかりではなく、大変危険です。
- 本機に異常な振動や異音が見られる場合はすぐに使用を中止し点検に出してください。

⚠ 注意

- 機械は水平な所へ設置してください。本体が傾いているとオイルセンサーが働きエンジンがかからなくなります。本機のストッパーで固定が不十分な場合は車輪が動き出さないよう添え木等で固定してご使用ください。
- 急な傾斜地でのご使用はオイルが最高油面でも適切な潤滑ができず、焼きつきトラブルが発生する可能性があります。
- 直射日光の当たる場所や換気の不十分な場所に設置して運転すると、エンジンが止まる場合があります。又、内部温度が上がり事故や故障の原因となる事がありますので必ず風通しの良い日陰に設置してください。
- 本機は小型の特性上、停止後の内部蓄熱が大きくなります。再始動をスムーズにする為に、作業中断時(休憩時)は扉類を開放し、内部の放熱を行なってください。
- 燃料は必ず携行缶に保管した新しいものを使用してください。ポリタンク等に保管した燃料や古い燃料は変質によりエンジンがかからなかったり出力が十分に出なかったりする原因となります。また気化器の交渉につながります。
- エンジン・ポンプオイルは必ず規定時間で交換ください。規定量入っていても劣化したオイルは潤滑性が無く焼きつきなどの原因となります。
また、オイルは運転しなくても酸化劣化しますので必ず定期的に交換してください。
- ポンプの空運転(水を吸わない状態での運転)はしないでください。パッキンが著しく磨耗します。又、空運転後に吸水するとヒートショックによりプランジャーが破損します。
- 酸、アルカリの使用は避けて下さい。
- 研磨剂的な作用をする液体の使用はポンプの寿命を著しく短くしますのでご注意ください。又、異物混入防止のため、吸水ホースには、吸水フィルターを必ず取りつけてご使用ください。
- ポンプ使用限界水温は40℃までです。それ以上高い温度の液体を使用しますと、ポンプの早期損傷につながります。
- 凍結した場合は無理に運転せず、解凍してから始動してください。
- ポンプのオイルキャップは手で脱着してください。工具を使用して締め付けると割れる恐れがあります。

1 使用上の注意(安全にご使用いただくために)

⚠ 警 告

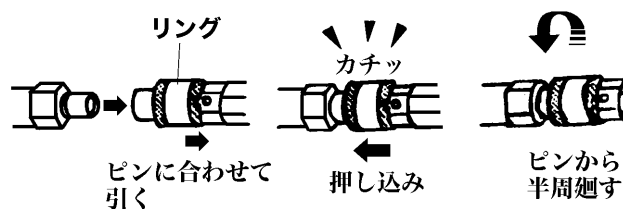
➡ ガソリンの給油

- エンジンを必ず止め、タバコ、たき火など周囲の火気が無いことを確認し、こぼれないようにゆっくりと給油してください。フィルターのレッドマーク以上に給油しないでください。こぼれた場合はきれいに拭き取り、完全に乾いてから始動させてください。
- ガソリン給油後は、タンクキャップを確実に閉めてください。ゆるんでいると運転中ガソリンがこぼれ、気化したガスにより引火する恐れがあります。

⚠ 警 告

➡ 高圧力に注意

- 安全のため洗浄作業を行わない時は、必ず安全ロックをしてください。
- 洗浄ガン、あるいはランスを取り外す時は必ず、本機の運転を止めてから行ってください。又、取り付けの際はカプラを『カチッ』と音がするまで押し込み、リングを半周ほど廻して簡単に外れないようにしてください。



👉 留 意

通常一般家庭で使用している水道水の水压は0.2～0.3MPa程度ですが本機によって噴出される水压は15MPaと非常に高い圧力がかかります。洗浄能力に優れる反面、警告に従わないと大変なケガを負うことになります。警告指示に従って正しくご使用下さい。

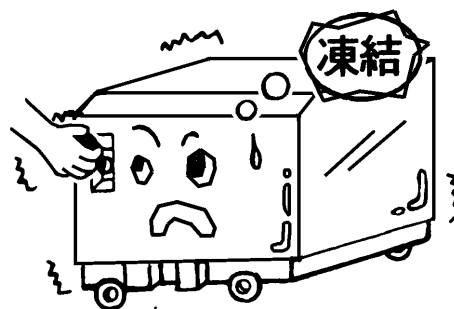
➡ 使用しない時や移動の時

- 必ずガソリンコックを閉めてください。タンク内のガソリンがエンジン内部に流れ込み、始動できなくなることがあります。この場合、キャブレター掃除やエンジンオイル交換が必要になります。また、本体内部に流れ出した場合は火災の原因となり大変危険です。
- エンジンの取扱いについて詳しくは別冊(同梱)の「エンジン取扱説明書」をご覧ください。

➡ 凍結

- 凍結が考えられる場合は使用後、不凍液を吸わせておくか水抜きを行ってください。ポンプ内の水抜きを行う場合は、ホースを外し軽くスターターを引くのも一つの方法です。始動前に凍結していないかどうか点検し、万一凍結の場合は、解凍するまで暖かい所へ置いて自然解凍を行ってください。

点検方法：軽くリコイルスターターを引いてみて、固くて引けなかったり、途中で引っかかる感じがある場合は凍結の可能性あります。



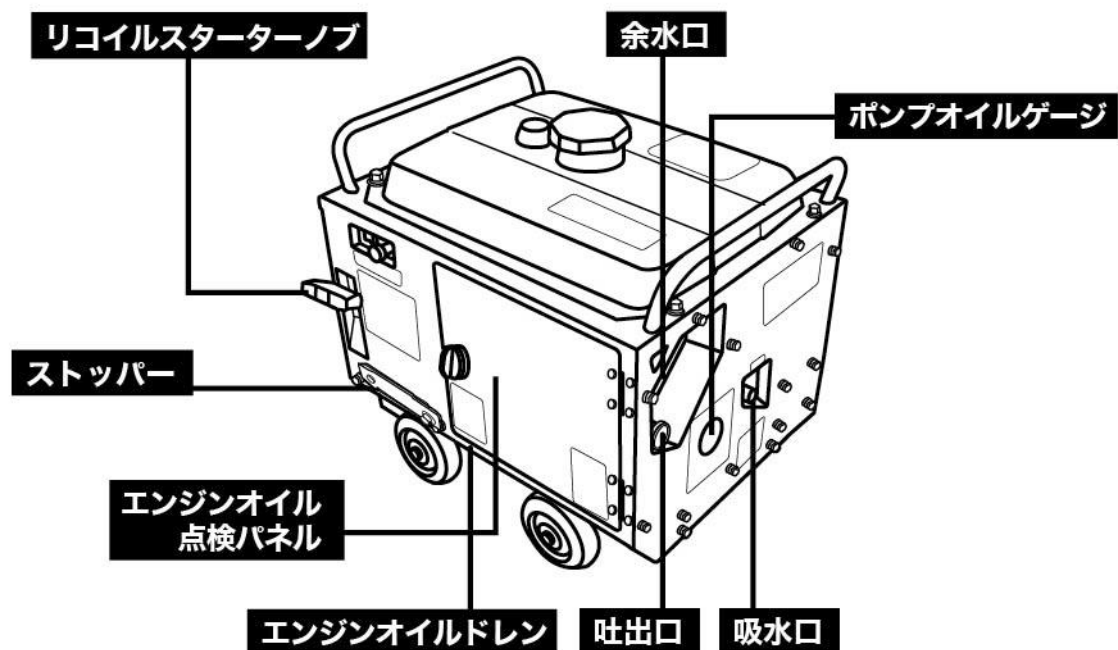
2 仕様諸元表

型 式		JC-1513SLN+
方 式		横型 3 連スーパーフロー式
ポンプ	圧力制御方式	背圧式アンローダー（内蔵式）
	最高圧力	15Mpa(150kg/cm ²)
	総水量(L/min)	13
	オイル量(L)	0.3
エンジン	名称・型式	GB181PN-125
	定格出力／最大出力	3.4/4.6kw（4.7/6.3PS）
	始動方式	リコイル
	使用燃料	無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	5L（連続運転約 3.5 時間）
	オイル量 上限/下限	0.6/0.4
全体	寸法 L×W×H(mm)	540×428×440
	乾燥重量(kg)	41.5
標準セット内容		洗浄ガン P31-0/ホースラム HD-60/ランス LC-4/工具一式/吸水ホース 1/2/余水ホース 3/8 吸水ストレーナー/クリアフィルター/エンジン取扱説明書/ジェットクリーン取扱説明書ゴムホース (9M)30m/洗浄ノズル（SLN 専用）1545

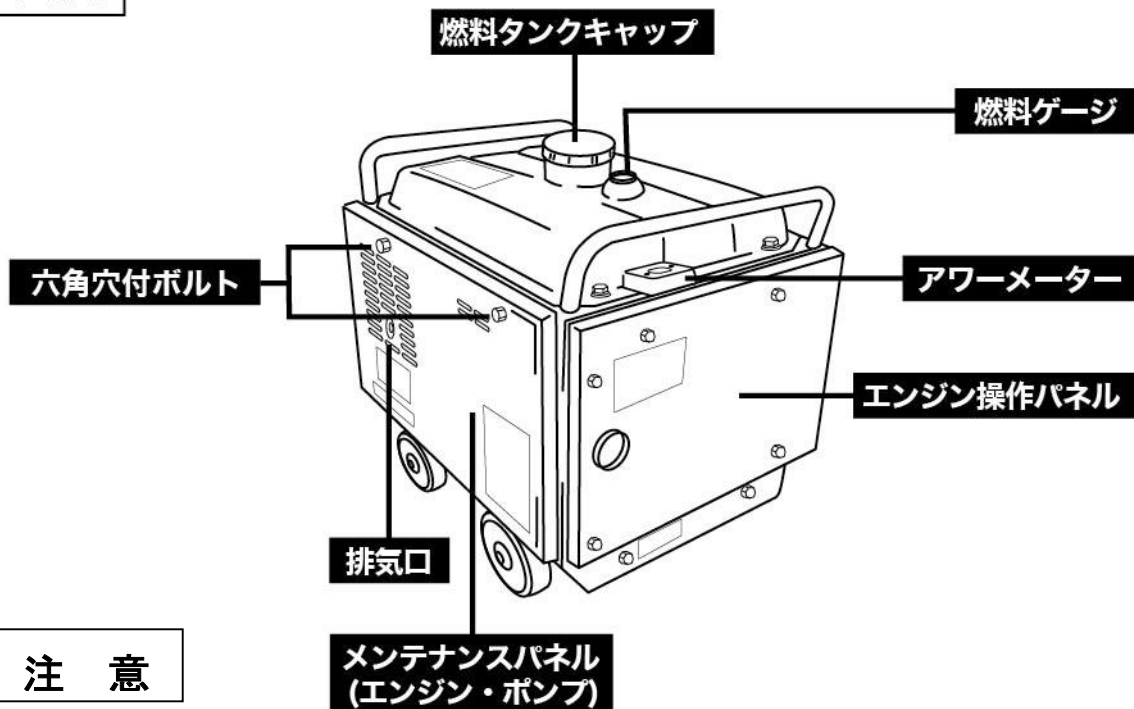
3 各部名称・機能及び、基本操作

JC-1513SLN+

表側



裏側



⚠ 注意

- 本機にはオイルセンサーが付いています。エンジンオイルが不足していたり機械を傾けて設置するとセンサーが働きエンジンはかかりません。オイルの量と設置方法を確認し、エンジンをかけて下さい。
- 本機は出荷の際適切な圧力に調節してあります。アンローダのストッパーリングをゆるめ、規定以上に圧力を上げる事は絶対にしないでください。

4 作業操作手順

4-1

オイル点検

 留意: オイル交換を怠ると機械の寿命が著しく縮みますので、継足しだけでなく必ず規定時間にて交換ください。

ポンプオイル(毎日点検)

●正面パネルにオイルゲージがありますので、オイルを点検し、不足していたらガソリンジェットクリーンオイルを入れてください。給油口及びドレンは正面パネルをはずした所にあります。

※ポンプオイルは初回 50 時間
2 回目以降は 200 時間毎に交換してください

 留意: オイルが暖かいうちに抜くときれいに抜く事ができますが火傷には十分ご注意ください。

 留意: 給油口キャップは手で脱着してください。プラスチック製ですので工具で締め付けると割れる恐れがあります。

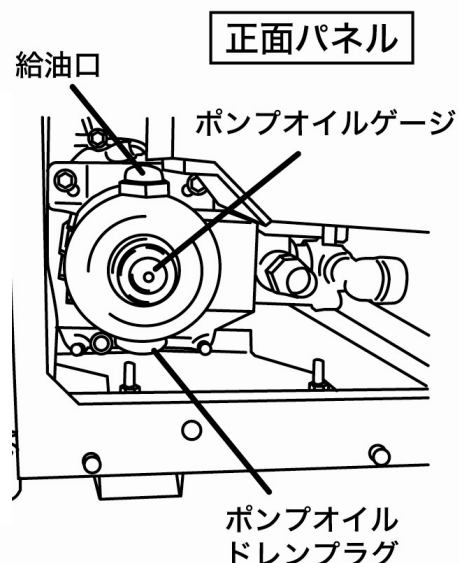
エンジンオイル(毎日点検)

●メンテナンスパネル(オイル点検)を開け、行ってください。不足しているときはガソリンエンジンオイル(10W-40)を入れてください。不足しているとオイルセンサーが作動し、エンジンがかからなかったり途中で停止したりします。

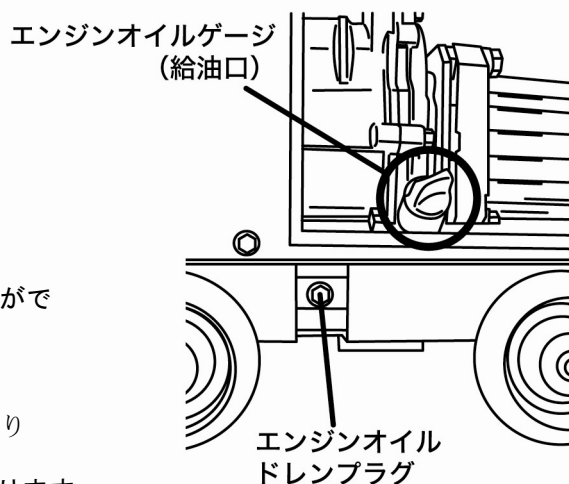
●エンジンオイルドレンプラグは、オイル点検パネルの下部にあります。
※エンジンオイルは初回 50 時間
2 回目以降は 100 時間毎に交換してください
オイルは運転しなくても酸化劣化しますので、必ず定期的に交換してください。

 留意: オイルが暖かいうちに抜くときれいに抜く事ができますが火傷には十分ご注意ください。

「お願い」
オイルは、徐々に消費しますので、オイル口すり切り一杯にいれてくださる様にお願いします。
中に空気をまきこむと泡がでて完全に入らない事もあります。少し時間をおいてオイルの追加入れをしてください。



エンジンオイル点検パネル



高圧洗浄機・推奨オイル

エンジン

4サイクル用 エンジンオイル

次のいずれかのオイルを使用して下さい。

◎セイワ純正ジェットクリーンオイル

○SAE # 30~40(又は10w-40)
→ガソリンスタンドや、カー用品専門店で
購入できます。



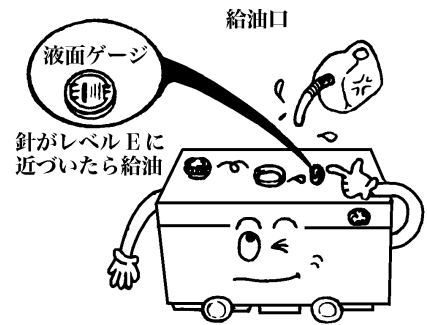
ポンプ

※ オイルは、各メーカーによって違います。故障や、トラブルの原因になりますので、必ずご使用のメーカーが推奨するオイルを使用して下さい。

4 作業操作手順

4-2 燃料の給油

- 本体上面に液面ゲージが付いています。ガソリンが入っているかを確認し、入っていない場合は給油してください。(タンク出口に水よけが付いている為、底面に5~10mmほどの燃料が残ったまま燃欠停止しますが異常ではありません)



- ⚠ ◆ こぼれた時はきれいに拭き取ってください。
- ◆ 燃料キャップはしっかり締めてください。
- ◆ 給油口には必ずフィルターを取りつけて給油してください。
- ◆ 規定以上に給油しないでください。

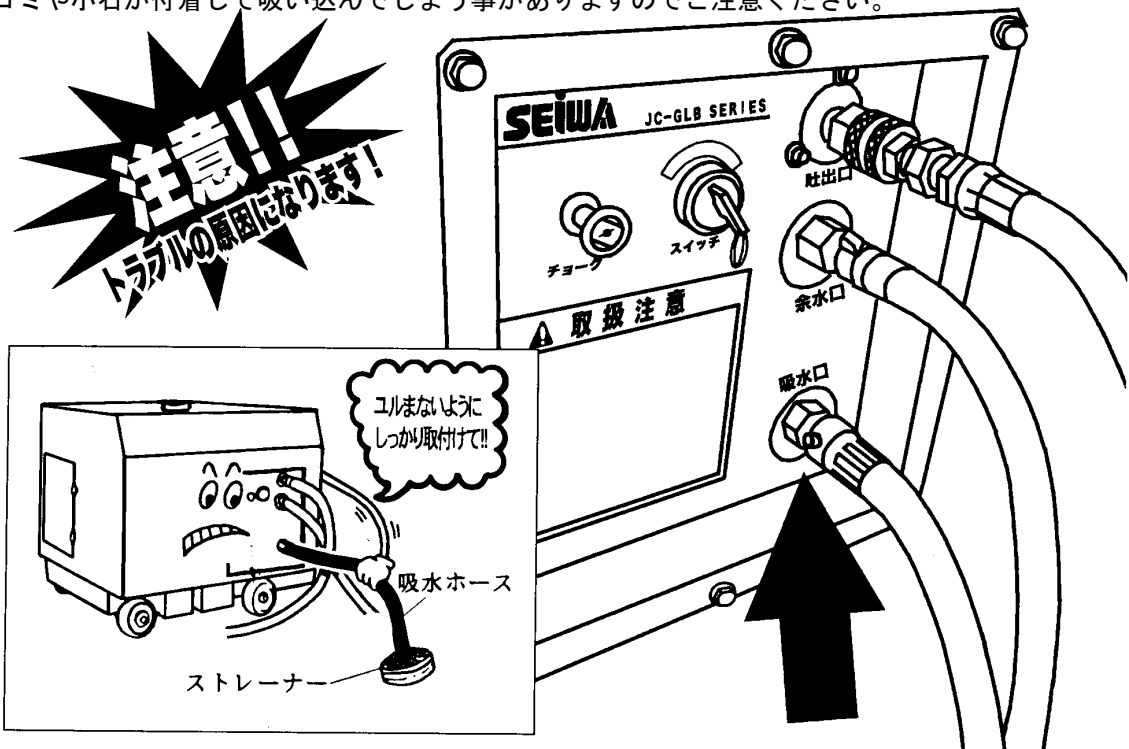
4-3 付属品の取付と準備

- 👉 留意: 燃料は常にいっぱいにしておくことで結露による水分発生、タンクの錆びが発生しにくくなります。

- ① 吸水口に吸水ホースを取り付けます。(ホースには吸水フィルター、クリアフィルターを取付)
- ② 余水口に余水ホースを取り付けます。
- ③ アンローダの吐出口に洗浄ホース(ホースドラム)をワンタッチカブラで取り付けます。

- ⚠ 吸水ホースには必ずストレーナーを取付けてください。ゴミの吸込みは弁の早期摩耗や吸込み不良の原因になります。付属のクリアフィルターをご使用いただくと細かい粉塵まで除去するため、ポンプの耐久性が上がります。フィルターは作業前に必ず詰まりを点検、清掃してください。

- ⚠ 吸水ホースの取付けがしっかりと出来ていない場合、作業中に振動等でゆるみ、吸水不良などのトラブルの原因となることがあります。また、はずした際に地面等に起きますと金具内部にゴミや小石が付着して吸い込んでしまう事がありますのでご注意ください。



吸水ホースはしっかり接続してください!!

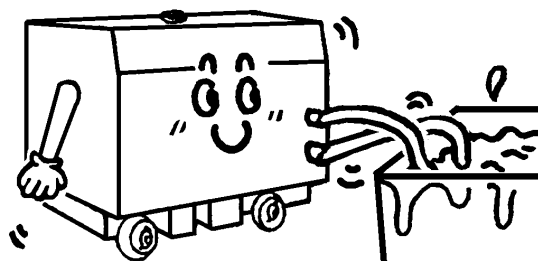
4 作業操作手順

4-4 エンジンの始動

1. 水の入った水槽の中に吸水、余水ホースを入れます。

 留意: 作業前にフィルターの詰まりを点検、清掃してください。特にクリアフィルターは網目が細かくゴミをよく取りますので必ず点検清掃してください。

 留意: 水槽は水を張る前に清掃して、内部のゴミを取り除いてから水道水を入れてください。雨水や河川の水等を使用しないでください。



2. エンジンの始動

①燃料コックを開きます。

 留意: カップに水やごみが入っていたらカップをはずして捨ててください。その際、コック部にあるフィルターとパッキンを無くさないようご注意ください。

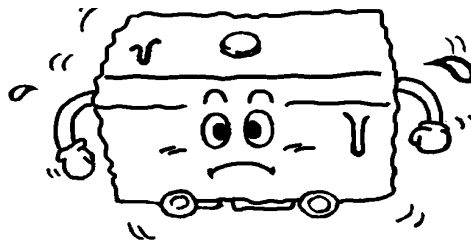
②チョークを引きます。
5回以上リコイルを引いてもかからない場合はプラグがかぶってしまう為に、いったんチョークを戻してリコイルを引いて下さい。

③エンジンスイッチを ON (I) にしてリコイルスターターを引いて始動させます。
エンジンがかかったらチョークを全開 (左いっぱい) にしてください。

 留意: チョークが中間位置のまま運転を続けるとプラグにカーボンが著しく付着して点火できなくなります。

 留意: 本機は自動調速型のエンジンを搭載していますので、スロットル調整はありません。

④エンジン始動後5分間は暖機運転を行ってください。
(この時、余水ホースから水が戻っているか確認してください)



 運転は、ポンプの早期摩耗につながります。

4-5 ア フ ー メ ー タ ー 設 置

1. 交換可能なバッテリータイプ: CR2032
2. 時間表示モードはオプションです。時法と分法に分かれています。
例えば、時法 123.4 は、123.4 時間が 123 時間 24 分に等しいことを意味します。123 : 06 は 123 時間と 6 分が 123.1 時間に等しいことを意味します。ボタンを短く押して、表示モードを切り替えます。
3. イグニッション信号がなく、ボタンを押さない場合は自動スリープします。
バッテリーを節約するために5分で自動スリープします。イグニッション信号を受信すると、自動的に起動・計測します。
4. リセットする場合はバッテリーを取り外し、5分待ってから入れてください。
バッテリー電力が不足していて、現在のデータを保存したい場合は、バッテリーを取り外してから2分以内に新しいバッテリーを入れてみてください。

4 作業操作手順

4-6 作業開始

1. ガンを引くとノズルから高压の水が噴射されます。
高压力の注意を守り洗浄開始してください。

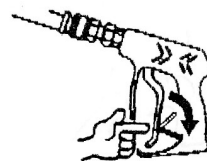
⚠ 作業を中断する時は、ガンの安全ロックをしてください。

2. 圧力調整はアンローダーで行えます。
アンローダノブを廻して調整してください。
しめる⇒「高压」 ゆるめる⇒「低压」

⚠ ストッパーリングは最高圧力位置で固定されています。
この範囲内で圧力調整を行ってください。
ストッパーリングは絶対にゆるめないでください。
事故や故障の原因になります。
また、アンローダやホースを持って本機を移動
しないで下さい。

手元にて噴射部の圧力調整を行いたい場合は、
別売付属品の[フローガン (P31F-0)]又は
[フローレギュレータ (FR-0)]をご使用ください。

作業中断時



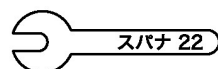
安全ロック

4-7 一旦停止

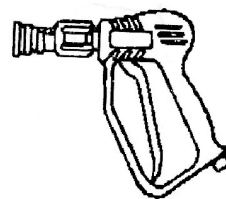
休憩等で一旦停止する際は無負荷(ガンの引金をもどした状態)で2~3分程度運転した後スイッチをOFF(0)にして停止し、リコイル側の扉を開放して本機内部の放熱をおこなってください。

⚠ エンジン停止とともに冷却機能も停止する為、そのまま置くと本機内部の蓄熱で再始動ができなくなります。

⚠ 急停止は機械の寿命を著しく縮めます。又、アフターバーナーが発生し危険です。



スパナ 22



フローガン (P31F-0)



フローレギュレーター (FR-0)

4-8 停止終了

1. 一旦停止同様に無負荷の状態2~3分程度運転した後、吸水ホースを水槽から抜き出し、ガンを引いて吸水ホース、及びポンプ内の水を抜いてください。

⚠ 水を抜いた後、1分以上の空運転は避けてください。
パッキンの異常摩耗の原因になります。
又、空運転後に吸水しますとヒートショックによる
プランジャー割れの原因となります。

2. エンジンスイッチをOFF(0)にしてエンジンを停止してください。

⚠ エンジン停止後も洗浄ホース内には圧力がかかっています。洗浄ガンの引金を引き、ホース内の残圧を抜いてください。

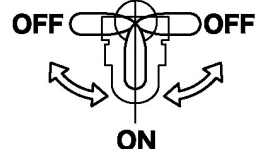
● 作業終了後本機を移動するときは、必ず燃料コックを閉じてください。

⚠ コックを開いたまま移動させますとオーバーフローによりガソリンがこぼれたりエンジンの内部に侵入し、次回使用ができなくなるばかりでなく、大変危険です。

禁止



燃料コック



5 トラブル対策

故障はできるだけ早期に発見して適切な対策をとることが大切です。
現場トラブルは 80%以上が吸入弁、アンローダーの砂、ゴミ詰まりです。次の表を参考に処置してください。
修理不能な場合は弊社営業所、又はお買い上げいただいた販売店までご連絡ください。エンジンにつきましては別冊「エンジン取扱説明書」をご覧ください。

現 象	原 因	対 策
・ポンプを回しても全く水が出ない ・高圧ホースを外した状態でも水が出ない	●吸水ホースの締め付け不良、又はパッキン不良 ●吸水ホースの穴あき ●ポンプ弁(吸入弁・吐出弁)のゴミ詰まり、又はひっかかり	★増締め、又はパッキン交換 ★交換(テープ等で応対処置) ★吸水口に水道ホースを押し当てて水道圧で勢いよく流し込む、だめな場合はバルブ分解洗浄
・規定の圧力が出ない ・圧力が低い	●アンローダー弁の作動不良(ゴミによる場合が多い) ●ノズルの摩耗、又はサイズの不適 ●ポンプ弁、弁座、アンローダー弁の摩耗 ●ピストンパッキンの摩耗 ●圧力計の劣化 ●吸水フィルターのゴミ詰まり	●分解して洗浄 ★ノズル交換 〔ノズルは約 100 時間で摩耗のため圧力に影響します。〕 ●交換 ●交換 ●交換 ★分解・洗浄
・圧力が変動する ・ホースに振動が発生する	●吸水フィルターのゴミ詰まり ●吸水ホースの締め付け不良又は、パッキン不良及び穴あき ●ポンプ弁、アンローダー弁へのゴミ引っかかり	★分解・洗浄 ★増締め、パッキンの交換 ★吸水口から強制的に水道水を勢いよく流し込む、又はバルブ分解洗浄
・エンジンがかからない	●燃料切れ・水混入 ●燃料コックが閉じている ●エンジンオイル劣化、不足、傾斜設置によるセンサー作動 ●庫内温の上がりすぎ(使用停止後)	★ガソリンを入れる、交換をする ★燃料コックを開ける ★オイルを入れる、交換する 水平に設置する ★扉を開けてしばらく放置し庫内が冷えてからかける
・作業中エンジンがストップする	●エンジンオイル劣化、不足、傾斜設置によるセンサー作動 ●酸欠によるパワーダウン ●庫内温又は燃温の上がりすぎ ●排熱部品の破損 ●燃料に水が混入	★エンジンオイルを入れる、交換する 水平に設置する ★換気、風通しの良い所で使用 〔炎天下、極端に温度の高い場所換気の悪い場所での使用は避ける〕 ●部品交換、修理 ★水抜き、燃料交換をする

表中の★印は、トラブル時現場対応が可能な対策です。

長期保管(1 ヶ月以上)の際の方法

- ・燃料コックを閉じガス欠させてください。
- ・タンク内の燃料は燃料コックから全て抜いてください。
- ・キャブレター内の燃料は燃料ドレンより全て抜いてください。
- ・点火プラグをはずしてシリンダ内にエンジンオイルを少量(約 10cc)注入しリコイルを数回まわした後、点火プラグをつけて圧縮のあるところまでまわして止めつけてください。
- ・バッテリーの端子をはずし、ビニールテープなどを巻いて置くようにして下さい。(セル付きのみ)

メンテナンスサイクル表

	内容	毎回	25H	50H	100H	200H	250H	500H
ポンプ	オイル点検、補給	○						
	吸水フィルター詰まり確認、清掃	○						
	配管締付、漏れ点検	○					●	
	各部締付点検(フランジ、フレーム等)			○			●	
	オイル交換			△		○		
	アンローダピストン、シート点検					●		
	パッキン類点検						●	
	バルブ点検							●
	ポンプ部ボルト、ナット締付点検	○						●
エンジン	各部ボルト、ナット締付	○					●	
	オイル点検、補給	○						
	燃料、オイル漏れ点検	○						
	エアクリーナ、リコイル周囲点検、清掃	○						
	オイル交換			△	○			
	燃料コック(フィルタ)点検、清掃			○				
	点火プラグ点検・清掃				●			
	バルブクリアランス点検・調整						●	
	燃焼室のカーボン除去						●	

○:ご使用者様による作業

●:サービスマンによる作業

△:初回のみ

オイル エンジンオイル(JC オイルが最適です)

ガソリンエンジン用オイル SJ級以上

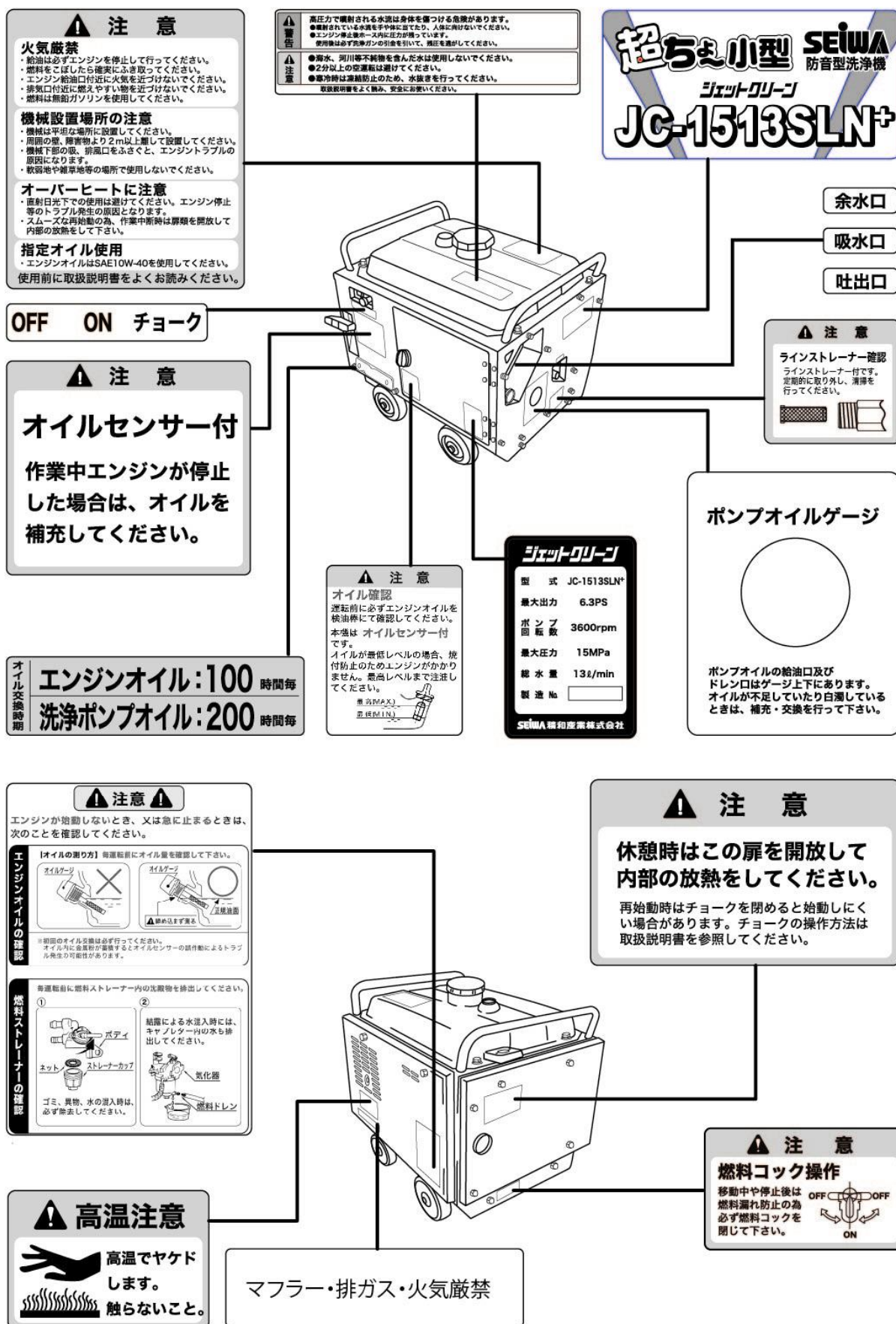
マルチグレード SAE:10W-40

ポンプオイル(JC オイルが最適です)

・エンジンオイル

上記エンジンオイル

警告ラベル貼付位置



※警告ラベルは見えにくくなったら、新しいものに貼り換えて、常に確認できるようにしてください。

JC-SL シリーズの運転開始前に必ず下記空欄に必要なことがらを記入してください。点検の時に大変役に立ちます。

項目	ご記入欄		
型 式	JC-1513SLN+	ご購入年月日	年 月 日 ()
製造番号	No.	ご使用開始年月日	年 月 日 ()
ご購入先	〒 TEL ()		

アフターサービスについて

保証規定

1.保証内容

お買い上げの日から1年の間に正常な使用状態にも関わらず弊社の責任に基づき故障が発生した場合は無償修理させていただきます。

2.適用除外 ●保障期間中でも下記の場合には適用いたしません

- (1) 不当な修理や改善による故障、損傷。
- (2) お買い上げ後の落下などによる故障、損傷。
- (3) 火災、塩害、ガス外、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障、損傷。
- (4) 使用・取扱い上の酷使、過失、手入れ不十分および外的損傷による故障、損傷。
- (5) ノズル、摺動部の磨耗およびパッキン等の消耗部品。
- (6) 注意事項および取扱説明書に記載した内容の範囲外の条件で使用した故障および損傷。
- (7) 書類に不当な字句訂正などがあった場合。

3.本書はお買い上げの納品書(納入口が記載されていることを確認)とともに大切に保管してください

ユーザー登録について

～保証対象の確認および、速やかな保証対応のために、機械購入時にユーザー登録をお願いしています～
同封の保証書に必要事項をご記入いただきFAXいただくか、弊社ホームページ経由でも受付をしています。
ホームページ経由でご登録いただきますと、ご購入いただいた商品のメンテナンス情報、関連する付属品、
便利なオプション品情報、新商品情報など、定期的に情報配信をさせていただきます。

是非、この機会にご利用くださいますようお願いいたします。

・登録場所/精和産業トップページ右側中段「機械ご購入者様用・保証書ユーザー登録」

<https://www.seiwa.com>

ここからも登録できます→



修理サービス

修理はお買い上げの販売店又は、弊社最寄りの営業所にご連絡ください。

SEIWA 精和産業株式会社

浜松配送センター

〒432-8006 静岡県浜松市中央区大久保町1348
TEL 053(485)6181 FAX 053(485)6180

仙 台	981-1105	仙台市太白区西中田6-15-13	携 帯	090-3212-9902
群 馬	371-0854	群馬県前橋市大渡町1-8-6	携 帯	080-1838-8248
東 京	136-0072	江東区大島5-12-7	TEL	03-3638-6911
神 奈 川	242-0029	大和市上草柳8-28-18	携 帯	090-7404-1915
名 古 屋	453-0839	名古屋市中村区長筈町4-15	携 帯	080-1838-8248
大 阪	547-0001	大阪市平野区加美北8-1-18	携 帯	080-1838-8248
岡 山	710-0841	倉敷市堀南606-1	携 帯	090-8855-1690
福 岡	816-0912	大野城市御笠川11-8-7	携 帯	090-8855-1690
エス・ディー ツール	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘2-22-10	携 帯	090-2515-0068
塗機商事	903-0124	中頭郡西原町呉屋108-6	携 帯	080-1794-4141